

鳴門市鳴門中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための学習指導の在り方
 ①基礎的・基本的な知識・技能を伸ばし、個に応じた指導を充実させる。
 ②自分の課題を見つけ、対話的な活動を通じて解決していく態度を育成する。

学力向上検討委員会構成

- 学力向上推進員 委員
 校長:中山 祐次 教頭:櫻井 篤史
 森本 千晶 教務主任:森 義雄 研修主任:森 義雄
 1年主任:近藤隆博 2年主任:濱田加容子 3年主任:福井英子

校長

中山 祐次 印

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○指示された課題に対して真面目に取り組むことができる。 ○ワークやプリントの問題を解くなど、3分前復習の時間を有効に使っている。 ●学習内容の定着が難しい生徒がいる。	・授業に集中し、自分の力で問題を解こうとする。 ・基礎基本を確認する小テストで満点がとれるように努力する。 ・ワーク類の課題を復習に活用し、くり返し解いて、学習内容を定着させる。	・生徒が集中して取り組めるように、短時間ごとに区切って活動させるなどの授業展開を考える。 ・基礎基本を確認する小テストを行い、8割に満たない生徒には個別指導をする。 ・月1回3分前復習に使っているプリント内容の定着を確かめるテストを行う。		・短時間ごとに区切って活動させられるように授業計画をし、生徒に示すことで、見通しのある授業展開ができた。 ・必要に応じて基礎基本を確認する小テストを行った。 ・セミナーテストを行い、同じ問題を出题することで学習へのきっかけとした。(1年)	・セミナーテストを活用して、教科の小テストにも意欲的に取り組めるようにする。(1年) ・キュビナを用いて小テストを行う(1年) ・家庭学習やテスト前の学習に計画的に取り組む、くり返し解くことができるよう支援する。(2年)

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発言しようとする前向きに取り組もうとする生徒が多い。 ○ペア学習や班活動などの話し合いでは、積極的に取り組める。 ●考えを深めたり、まとめたりすることが難しい生徒もいる。 ●発言する生徒に限られている場合がある。	・授業の中で、自分の考えを表現することができる。 ・自分の考えを深めたり、他者に説明したりする活動に積極的に参加する。	・授業中に生徒が考えをまとめる時間を十分に確保する。 ・記述させることで自分の考えを深めたり、他者と比較したりさせる。 ・ノート、ワークシート、タブレットのそれぞれをうまく活用しながら自分の考えをまとめたり、他者と比較・共有したりする場面をさらに多く設定する。	・思考力・判断力を問う問題を授業のなかで解かせる。	・ホワイトボードやタブレットなどを使い、生徒同士で意見を出し合い、まとめる時間を設けた。 ・ペア学習や班活動などを取り入れ、自分の考えを伝え合う場面を多く設定した。以前よりも積極的に表現したり、他者と比較・共有したりさせることができた。	・メタモジなどタブレットを活用して意見を共有する場面を作る。 ・伝え合うだけで終わるのではなく、他者の意見を受けて自分の考えを深め、さらにそれを表現できるよう場面を設定する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○声をかけあって集中して学習できる雰囲気を作ろうとしている。 ○生徒会が企画した「授業3分前復習」に全校生徒で取り組むことができています。 ●自ら課題を見つけて取り組むことが難しい生徒もいる。 ●自主学習ノートが上手く活用できていない生徒もいる。	・3分前復習に意欲的に取り組むことができる。 ・周囲と協力して、問題を解決することができる。 ・自主学習ノートを活用して、基礎・基本の定着をはかる。 ・目標や目的意識をもち、達成に向けて努力できる。	・短時間で取り組める課題を生徒に指示し、達成できるように支援する。 ・3分前復習で机間巡視し、間違いの多い問題の解き方を授業の初めに共有する。 ・自主学習ノートが効果的に使っている生徒のノートを掲示する。 ・目標の内容や達成度を具体的に示す。		・3分前復習に取り組める体制づくりを、声かけなどで行った。 ・自主学習ノートについて、個別の対応で内容の改善を図ったが、うまくいっていない部分もある。 ・授業終わりに次時の学習内容を伝えることで、3分前学習で焦点を当てて学習に取り組める生徒を増やすことができた。	・各教科の学習は楽しいというイメージをインプットさせるために、楽しい学習方法を各教科の中で取り入れる。(1年) ・3分前復習の内容について、教員間で話し合い、効果的な時間になるよう工夫・改善する。また、生徒が継続して取り組めるよう、声かけや支援をしていく。(2年)

令和5年度 学力向上ロードマップ

